

## 鉄の教会

米原慶子 神戸松蔭女子学院大学人間科学部 准教授 / Ks Architects・夙川アトリエ主宰

前号まで「みなと MOTOMACHI ケンチクさんぽ」と題して、(公社)日本建築家協会近畿支部兵庫地域会のメンバーを中心に、順次3年間の連載をさせていただきました。

今回から新企画として、建築の設計や都市計画を専門とする私たちが知っている、まちかどの建物に関する「ケンチクばなし」を順次書いていきたいと思えます。それぞれの建築に込められた思いや工夫、地域との関わりなどのエピソードをご紹介します。みなと元町のまちづくりに、何か少しでもお役に立てればと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は御影の山手にある「鉄の教会(神戸新生バプテスト教会)」という、約20年前に夫の木村博昭と共に私が設計に携わった小さな礼拝堂をめぐるお話をご紹介します。

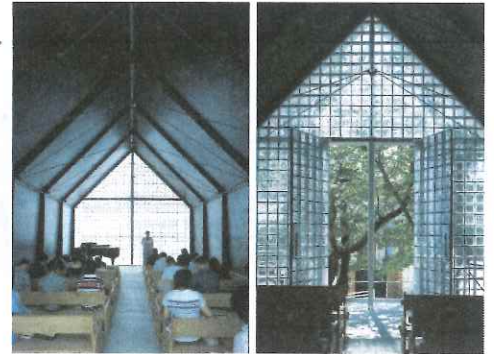
「鉄の教会」がある鴨子ヶ原2丁目交差点の角地には、もともと3倍ほどの敷地に牧師住宅と併設の小さな礼拝所がありましたが、アメリカの教会本部の撤退方針によって牧師が去り、売却されることになりました。残された信者たちは、信仰の場と長い年月をかけて育んできたコミュニティの場を存続させたいと、自分たちの寄付金で元の敷地の一部を買い取り、再建することを目指しました。

私たちはその建築設計の相談を受けたのですが、厳しい資金難のため、通常の方法では再建は困難だと思われました。そこで信者、設計者に有志学生を加えたミーティングを重ね、再建を可能にする道筋を模索しました。

そして様々な支援プログラムを計画、実行することで資金難を乗り越え、ミニマムな教会建築を実現することができました。

設計者の私たち両方が大学教員でもあることから、大学院生参加の設計ボランティア、他校の協力も得てのベンチ学生コンペ+制作ワークショップ、外構・造園ワークショップなどを行い、既存床材を再利用し、妻壁のガラスブロックは、寺社の瓦寄進のように多くの賛同者からご寄進いただきました。

そして建築計画・工法の面では、「プリミティブ=原始的」をコンセプトに、無駄を削ぎ



落としながら、祈りの場にふさわしい空間を目指しました。傾斜地の半地階は鉄筋コンクリート造の集会室、上階の礼拝堂は、壁と屋根を一体的に9mmと16mm厚の鉄板の加工部材を組み合わせたシンプルな構成としました。家型の片側の屋根と壁をへの字型の鉄板パーツとし、車両で運搬可能なサイズに分けて工場で作成。現地で組み合わせることで建設コストを抑え、外側を遮熱塗料で仕上げ、自然光や自然換気を極力取り入れながら、空間を構成しています。

面材の9mm厚、リブの16mm厚の鉄板は造船にもよく使われる素材で、躯体・内外装材として信頼性が高く、切断や曲げなど、わずかな造形操作とシンプルな加工で豊かな表情を生み出せるのも魅力です。

両妻側は、十字架型の部材が構造上の重要な役割も果たし、透明度の高いガラスブロック壁から、既存の3本の桜の緑陰が、礼拝堂内に導かれるようにしました。

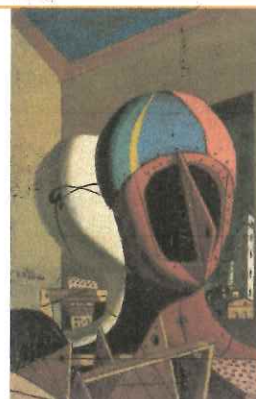
このような鉄板による建築工法は、一般的ではありませんが、造船の街・神戸で、様々な有効活用できればと考えています。



クロード・モネ(睡蓮)1908年 油彩、カンヴァス  
Museum Purchase, 1910.26  
ウスター美術館所蔵/  
image courtesy of the Worcester Art Museum

印象派  
モネからアメリカへ  
ウスター美術館所蔵

会場:あべのハルカス美術館  
(あべのハルカス16階)  
会期:2024年10月12日(土)  
~2025年1月5日(日)  
時間:火~金/10:00~20:00  
月土日祝/10:00~18:00  
\*入館は閉館30分前まで  
休館日:10月21日(月)、12月31日(火)  
1月1日(水・祝)  
問合せ先:06-4399-9050(あべのハルカス美術館)



## デ・キリコ展

会場:神戸市立博物館  
(神戸市中央区京町24番地)  
会期:2024年9月14日(土)  
~12月8日(日)  
休館日:月曜日、10月15日(火)、11月5日(火)  
(ただし10月14日[月・祝]、11月4日[月・振替]は開館)  
開館時間:9:30~17:30(金、土は20:00まで)  
\*展示室への入場は閉館30分前まで  
問合せ先:078-391-0035(神戸市立博物館)

《形而上的なミューズたち》1918年、油彩・カンヴァス、カステッロ・チリコ・リヴォリ現代美術館  
(フランチェスコ・フェデリコ・チェッラーティ美術財団より長期貸与)  
© Castello di Rivoli Museo d'Arte Contemporanea, Rivoli-Turin,  
long-term loan from Fondazione Cerruzzi © Giorgio de Chirico, by SIAE 2024